



Graduate School

2016年度 博士前期・後期課程

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 看護科学専攻

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/kango-kagaku/>

University of Tsukuba

Graduate School of Comprehensive Human Sciences

Doctoral & Master's Program in Nursing Science

筑波大学は、研究利便性の高い筑波研究学園都市に位置し、国際レベルの教育・研究の拠点となることを目指しています。

人間総合科学研究科は、人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の3側面を視野に入れながら、人間に関わる総合科学の確立を目標に、人間に関する多面的知識を基礎にして、優れた先端的研究やユニークな学際的研究ができる能力を備えた研究者の育成、と同時に人間の諸問題に現実的かつ柔軟に対処できる能力を有する高度専門職業人の育成をめざしています。



教育研究上の理念・目的

わが国の保健・医療・福祉は、医療技術の進歩・少子高齢化・生活水準の向上などによる急速な環境の変化により、高度化・専門化してきています。これに伴って、看護では、科学的根拠に基づいた的確な判断力・高度な知識ならびに技術を有する専門職業人を育成し、保健・医療・福祉の一翼を担うことが求められています。



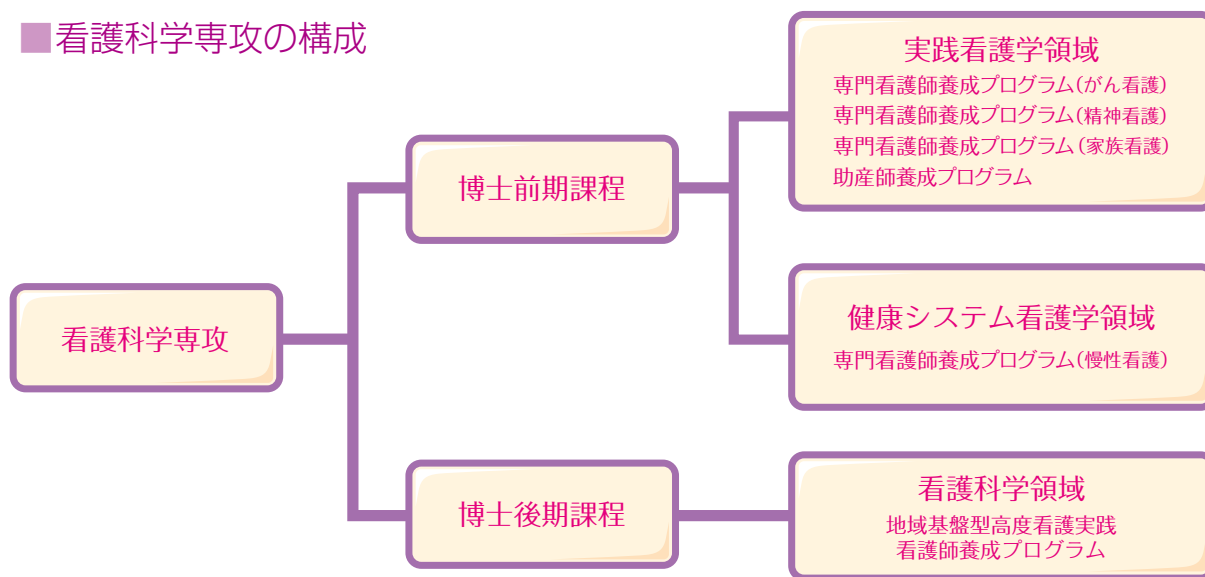
■博士前期課程

現代の医療ニーズにこたえるために、科学的・創造的に問題解決ができる人材の育成を目指して、個人・家族・地域・環境のつながりを大切にしたカリキュラムを編成するとともに、高度専門職業人の育成に向けた教育を展開しています。

■博士後期課程

人間総合科学研究科の「学融」「先端」「再生」の改革理念・教育目標の実現を目指し、新たな看護の技術や教育・研究方法を開発できる看護科学の教育者・研究者の育成を目的としています。

■看護科学専攻の構成



博士前期課程

領域	教員名		研究内容	CNS など
実践看護学	村 井 文 江	准教授	周産期における看護、女性の健康支援、思春期の健康支援	助産師養成
	川野 亜津子	助 教	周産期の健康支援と家族発達支援、精神的・身体的ストレスマネジメント	
	古谷 佳由理	准教授	小児とその家族の看護介入、小児がん看護、End of Life	家族支援 CNS
	涌 水 理 恵	准教授	慢性疾患および障害を有する児と家族に関する研究全般	
	水 野 道 代	教 授	がん看護、緩和ケア、QOL	がん看護 CNS
	笹 原 朋 代	助 教	緩和ケア、がん看護、看護師へのエンド・オブ・ライフ・ケア教育	
	山下 美智代	助 教	がん看護に関する臨床研究	
	森 千 鶴	教 授	精神科リハビリテーション看護、看護学教育	精神看護 CNS
	岡 田 佳 詠	准教授	気分障害・統合失調症看護、認知行動療法の適用効果、CNS教育	
	三 木 明 子	准教授	看護師のメンタルヘルス支援・ストレスマネジメント	
健康システム看護学	安 梅 勅 江	教 授	国際発達ケア、エンパワメント科学	
	坂田 由美子	教 授	地域住民の健康増進プログラムの開発、介護者の健康支援	
	山 海 知 子	准教授	公衆衛生学、生活習慣病の疫学、産業保健	
	川 口 孝 泰	教 授	遠隔看護、バイタルサインのセンシング技術の開発、看護工学	
	浅 野 美 礼	准教授	看護過程と情報科学	
	杉 本 敬 子	助 教	国際看護、周産期のメンタルヘルスケア	
	福澤 利江子	助 教	周産期ケアの国際比較、ドゥーラサポート	
	日高 紀久江	教 授	リハビリテーション看護	慢性疾患看護 CNS
	柴 山 大 賀	准教授	慢性疾患の自己管理教育、量的研究	
	阿 部 吉 樹	助 教	神経筋疾患患者の看護、慢性痛、産業保健・産業看護	
	萩野谷 浩美	助 教	患者のストレス、看護ケア技術、看護教育	

	教員名		研究内容	
兼任	小 泉 仁 子	准教授	看護管理、看護学教育、キャリア発達に関する研究	筑波大学 附属病院

博士後期課程

領域	教員名		研究内容
看護科学	安 梅 勅 江	教 授	1. コミュニティ・エンパワメントに関する研究 2. 生涯発達の可塑性と関連要因に関する研究 3. ケアシステムに関する国際比較研究
	川 口 孝 泰	教 授	1. 看護人間工学に関する研究 2. 遠隔看護のシステム開発 3. 病床まわりの環境調整・デザイン
	日高 紀久江	教 授	1. 意識に障害のある患者に対する看護に関する研究 2. 療養者の栄養管理に関する研究 3. リハビリテーション看護に関する研究
	水 野 道 代	教 授	1. がん患者の QOL に関する研究 2. 緩和ケアを必要とする患者・家族に関する研究 3. がん患者の保健行動への介入（就労支援、ウェブサポート等）研究
	森 千 鶴	教 授	1. 統合失調症患者のリハビリテーション看護に関する研究 2. 薬物・アルコール依存症者の看護に関する研究 3. 摂食障害患者の看護に関する研究
	平成28年度7月以降 採用予定	教 授	助産、母子保健に関連する研究



博士前期課程【2016年度】

- 修業年限:2年
- 取得学位:修士(看護科学)
- 取得可能資格:養護教諭専修免許状(養護教諭一種免許既取得者)
- 修了要件:2年以上在学し、授業科目について所定の30単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格する。

専 門 基 礎 科 目		※●看護科学論、●看護コミュニケーション論、※看護コンサルテーション論、※●看護学研究法、●保健統計学、国際看護学、※看護倫理学、※看護教育論、※フィジカルアセスメント、※病態生理学、※臨床薬理学、●看護教育学、●地域母子保健論、●女性と健康、●女性の精神保健学、●生殖生命倫理学、●周産期のフィジカルアセスメント	医療技術の進歩と疾病構造の変化による多様な医療ニーズに応えられる幅広い知識を持った豊かな人間性と科学的思考を促進する。
専 門 科 目	実 践 看 護 学 領 域	●：発達支援看護学特論、発達支援看護学演習Ⅰ、発達支援看護学演習Ⅱ、発達支援看護学演習Ⅲ、発達支援看護学演習Ⅳ、助産学特論Ⅰ、助産学演習Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学演習Ⅱ、助産学特論Ⅲ、助産学演習Ⅲ、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ ※1：発達支援看護学特論、養育期家族援助学、家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習、家族看護学特論、家族生活アセスメント学、家族アセスメント/インターベンション学、家族看護学演習/家族看護実践学、家族看護学基盤実習、家族看護学展開実習、家族看護学統合実習 発達支援学特論、発達支援学演習 ※2：がん看護学特論Ⅰ、がん看護学演習Ⅰ、基礎腫瘍学特論、臨床腫瘍学特論、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学特論Ⅲ、緩和ケア特論、がん看護学演習Ⅱ、がん看護学実習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ、がん看護学実習Ⅲ ※3：健康障害看護学特論、健康障害看護学演習、精神看護学特論Ⅰ、精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅲ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅱ	思春期・成熟期における女性の健康問題と支援、育児ストレス軽減の看護支援や母子関係支援、慢性疾患患者と家族を対象にした機能障害に応じた看護の開発や生活のQOL向上を目的とした看護の理論構築と実践、終末期のトータルケア、ケアリング、精神障害者へのリハビリテーション看護の専門的看護介入法と評価法の開発など、より高度な看護介入法を科学的に究明する。
	健康システム 看護学領域	地域健康システム看護学特論、 地域健康システム看護学演習Ⅰ、 地域健康システム看護学演習Ⅱ 環境調整看護学特論、環境調整看護学演習Ⅰ、 生体調整看護学演習 ※4：慢性看護学Ⅰ特論、慢性看護学Ⅱ特論・演習、慢性看護学Ⅲ特論、慢性看護学Ⅲ演習、慢性看護学Ⅳ特論、慢性看護学Ⅴ特論、慢性看護学Ⅴ演習、慢性看護学実習Ⅰ、慢性看護学実習Ⅱ	思春期・青年期のセルフケア能力と健康支援、在宅介護者の生活支援、高齢者・障害者などの住民のエンパワメント、国際支援、学校と職場で生活する人々のメンタルヘルスの向上、生涯発達理論など、セルフエスティーム・カウンセリング・エンパワメント・ストレス理論などをもとに、ライフステージの発達課題と関連づけた健康支援の看護法について究明する。 また一方で、生活習慣病の予防のための生活環境の調整と支援方法、遠隔看護、システムの設計と構築、アメニティ環境の課題、環境要因の生体への影響、睡眠や安全・安楽などの時間・空間に関わる看護上の課題、病者が病院などの施設療養から在宅へ環境移行する際に起こる看護上の諸問題などについて、臨地での実践や看護理論・モデルを踏まえて究明する。
	共 通 科 目	●インターンシップ、※●看護科学特別実習、 ※●看護科学特別研究	個人、家族、価値、環境をつなぐシステム・アプローチにより、高度専門職業人の育成を目指すための科目

- ※が付された科目は、専門看護師：Certified Nursing Specialist(CNS)教育課程科目に対応したシラバスになっています。※1：家族看護 CNS、※2：がん看護 CNS、※3：精神看護 CNS、※4：慢性看護 CNS
- が付された科目は、助産師課程養成プログラムとなっています。
- 科目は変更になる場合があります。

博士後期課程【2016年度】

■修業年限:3年 ■取得学位:博士(看護科学)

■修了要件:人間総合科学研究科看護科学専攻に3年以上在学し、専門基礎科目の中から必修科目7単位を含む10単位以上、さらに各専門分野の15単位を履修し、研究計画書の審査、博士論文の審査及び最終試験に合格する。

専門基礎科目	応用看護科学 応用統計学 看護研究方法論 看護学教育 臨床研究実践論 チーム医療実践論 臨床教育技法指導演習	専門的な分野での卓越した研究を実践するため、研究・教育者としての基本的な資質向上に焦点化すると同時に、さらにそれぞれの学生の専門を深める。
専門科目	看護科学特論Ⅰ	ヘルスプロモーションの視点から、地域特に学校における児童生徒の健康課題の明確化と心身の健康実態に応じた看護介入を通して、健康増進のための看護スキルやプログラムの開発、地域におけるヘルスケアシステム開発を目指す。
	看護科学特論Ⅱ	人の精神の健康と障害を多角的にとらえ、対象者の特性を考慮した精神の健康の維持・増進に関する看護実践を目指す。
	看護科学特論Ⅲ	女性と子どもおよび家族員の健康を促進、あるいは阻害する要因について、ライフサイクルとの関係から対象の健康支援、看護方法等についての探求・解明を目指す。
	看護科学特論Ⅳ	生涯を通して、個人、家族、地域社会、国際社会におけるケアシステムの開発、次代に向けた看護支援情報ネットワークと健康回復力向上の療養環境デザインを目指す。
	看護科学特論Ⅴ	これまでの看護において経験的に実践されてきたケア技術について、心理学的な観点から科学的に評価・究明することを目指す。
	看護科学特論Ⅵ	対象の健康問題を的確にアセスメントし、包括的視点に立って立案した看護援助の効果を科学的に評価するために必要な知識や研究技法を学び、慢性的な疾患や障害を抱える患者や家族の健康問題の構造および看護介入、介入効果の測定、サポートプログラムの開発等を目指す。
	高度実践看護学特論	高度な看護実践の基礎となる科学的根拠を自ら作り、臨床現場で活用するための方法論を、討議や演習を通して実践的に探求させる。
	高度実践看護学演習	地域における包括的・継続ケアの実践において、多職種医療チーム内で連携を図りながら、疾病予防から療養過程全般に及ぶ的確な臨床判断と医療管理、治療的な看護介入が行える知識・技術を教授する。
	看護科学演習Ⅰ	看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自が設定した研究課題について国内外の論文を検討し、系統的・論理的に研究目的と研究方法を立案・発表し、建設的に討議をすることで論文作成の技術を探求させる。
	看護科学演習Ⅱ	看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自の研究課題の独創性や新奇性について、根拠をもって発表し、建設的に討議をおこなうことで、研究遂行能力を探求させる。
	研究倫理学演習	看護研究者として必要な研究倫理に関する基礎的な知識、研究を推進するための研究の倫理的な配慮について具体的な事例を通して学び、実践力を習得する。
	看護科学研究	看護科学に関する特定の研究課題について、看護の視点から自立した研究活動を行い、科学的根拠に基づいた創造性・独創性の高い論文作成を教授する。

■地域基盤型高度看護実践看護師養成プログラムを開講しています。

■科目は変更になる場合があります。

在学生からのメッセージ

教育学・心理学・心身障害学・医学・体育科学など、従来の看護学の枠を超え学際的な観点から人間を総合的にとらえる画期的な試み——それが「看護科学」です。

「サイエンスの街・つくば」から、新たな看護のフィールドを一緒に広げていきませんか？

看護科学専攻 博士後期課程 3年

安藤 美香

私は、これまで主に助産師として産科での臨床経験を重ねてきました。現在、周産期医療は多くの問題を抱えていて、妊産婦さんも医療者も混乱していると思います。そのような中で、妊産婦さんにより良い看護を提供すること、医療提供者である助産師・看護師がやりがいを持って働くためにはどうすればよいかを考えるために、博士後期課程に進学しました。

博士後期課程の研究では、ただ自分が疑問に思ったことや知りたいたいことを探求するのではなく、明らかにする意義のあることを研究することが大切です。研究を進めていく中で、いろいろな知識を得て、そして新たな価値ある知をつくり出すことができたかと考えるとワクワクします。しかし、現実研究をやり遂げることは簡単ではありません。壁にぶつかることも多々ありますが、先生方の指導と刺激し合える仲間存在により支えられています。

筑波大学大学院では、看護だけでなく、医学・教育学・心理学・体育・芸術など他の多くの専門分野と関連があります。人間を対象とする看護を行う上では、看護以外の広い視野を持つことも重要です。筑波大学大学院は、人として医療者としての広がりをつくることのできる学びの環境であると思います。仕事をしながら勉強していくことは、身体的にも心理的にも大変なことが多くありますが、意義のある研究を目指して学んでいきたいと思っています。

看護科学専攻 博士後期課程 3年

仁昌寺 貴子

私が修士課程を修了したのは9年前のことです。修了後、看護系大学で教員として働きながらいくつかの研究に関わってきましたが、いつも自分の礎がグラグラしているようなもどかしさを感じていました。そこで改めて感じている課題に向き合い、次のステップに進めるような学びを得たいと考え、筑波大学を志しました。

筑波大学の魅力の一つは、環境の素晴らしさです。広大なキャンパスには図書館が4つあり、海外の文献を簡単に入手できます。都内の大塚キャンパスでも図書や文献を入手することができ、自分のペースに合わせた研究ができる恵まれた環境が用意されています。

また、様々なバックグラウンドを持つ院生との接点も魅力の一つです。大学院共通科目で、電池や藻の研究をしている他領域の大学院生とグループワークを一緒にしたこと、今まで考えたことのない発想を目の当たりにし、視野の広がりを感じました。看護系の大学しか経験したことのない私にとっては、総合大学の多様性に日々刺激を受けています。

現在は、慢性疾患である膠原病をもつ人々の看護について研究を進めています。看護の複雑な現象を言葉で表現することは困難で苦戦の毎日ですが、文献と向き合い、先生のご指導を受けながら、少しずつ形になっていくことは励みになります。博士論文までの道のりは長く、入口でうろろうしている自分をもどかしいような思いに駆られることもあります。それでも少しずつ前へ進めるように、研鑽を重ねていきたいと思っています。

看護科学専攻 博士前期課程 2年

一條 晶代

私は精神科病院と、一般科病院での臨床看護師の経験をする中で、特に患者・家族への精神的ケアについてもどかしさを感じる事が多くありました。根拠をもって質の高い看護実践ができるようにしたいと考え、リエゾン精神看護専門看護師を目指すため大学院への進学を決意しました。大学院1年目の前期は、専門基礎科目として、看護コンサルテーションや研究の基礎的知識を学び、研究に関する授業では、後期課程の先輩方とディスカッションをする機会もあり、理解を深める良い機会になったと思います。CNSコースは必修のフィジカルアセスメント・病態生理学・臨床薬理学、1年後期には専門分野の演習や実習も入り、プレゼンテーションや実習準備など日々充実しています。また、授業や実習、研究それぞれを通して、学ぶべきことが次々と見つかり、興味は尽きません。これから先も、専門性の高い実践的な看護ができるよう、先生方、先輩、同期に支えられながら日々奮闘し、頑張っていきたいと思っています。みなさんへぜひ、一緒に学びましょう。

看護科学専攻 博士前期課程 2年

成嶋 恭子

私は看護師として病院やクリニックで臨床経験を積んできました。その中で働く人の健康維持・増進、特にメンタルヘルスに興味を持つようになりました。臨床現場の課題を解決するために、看護領域だけでなく、例えば経営や政策の場にいる方と共有し協働できる知識と技術を身につけたいと思い看護科学専攻に進学しました。

授業は、グループワークやプレゼンテーションも多く、授業数は少なくとも多くの時間をその準備のために必要としました。膨大な知識体系の上に成り立っている理論を、説明できるレベルまで理解し、人に伝えることの難しさに頭を抱えつつも、おもしろさを感じています。そのような中で、看護そのものが、医学だけでなく哲学や心理学、社会学など、様々な学問領域の上に成り立っていることに改めて気づきました。学際的な視点を持つことは、看護そのものを理解すると同時に、新たな看護を考えるためにも必要なことだと感じました。筑波大学では大学院共通科目や学内のセミナーなどで看護以外の分野について学ぶ機会や、他専攻の大学院生と交流する機会もあり、新たな発見を得る貴重な場面となっています。

研究に行き詰ったとき、正体のはっきりしない大きな塊にかじりついているような感覚になりますが、同じ思いを共有できる同期、励ましてくれる先輩、そして熱心にご指導くださる先生方に支えられ頑張っているところです。自分の研究をかたちにし、臨床の役に立てるようにさらなる努力をしていきたいと思っています。

Graduate School of Comprehensive Human Sciences

Master's Program in Nursing Science

Admission Policy

1) Academic goals

The academic goals of the Master's program in nursing science are to 1) foster researchers who can scientifically analyze nursing practice through interdisciplinary and international perspectives, and who possess a diligent attitude as researchers, to 2) prepare students to utilize highly specialized knowledge and skills in nursing in a practical fashion, and to 3) prepare students to utilize the basic skills required for educators who support education in the nursing science.

2) Applicants expected

An applicant expected is one who strives to become a nursing professional who possesses highly specialized knowledge and skills in nursing, which are practical and supported by scientific evidence; and who strives to become an educator/researcher who takes a leader role in nursing practice.

3) Basic policy for entrance examinations

Academic performance and personality will be evaluated based on written and oral (interview-style) tests in the field of your specialty (nursing) and English. Special entrance examinations will be used to select adult students (e.g., those who have a job).

4) Schedule of entrance examinations

Students entering the Master's program in April in the next academic year are required to take the entrance tests in August.

Education and Research

< Clinical Nursing >

Clinical Nursing is focused on the support to mother and child with special needs and the persons with mental and physical health problems and their family. It explores the method of nursing intervention for each case on the premise of human dignity. Responding to the demands for suitable nursing practice, this field scientifically investigates nursing from comprehensive perspective including the cognitive aspect that influences people's health and living and their reaction.

< Health Care Systems in Nursing >

The principle of health promotion that underlies this field is creating a fair society where all the people enjoy their health at any stage of their life; targeting to explore the nursing method relevant to health promotion in group of schools, local communities and working areas. This field theoretically and scientifically investigates nursing activities in order to enhance quality of life of individuals, families and groups in local community. It also seeks to achieve healthy lifestyles of people and establishes local health system incorporating health, medical care and welfare in nursing aspect.

On the other hand, this course Environmental Health Nursing is the field that investigates nursing issues on living environment in basic science studies, and it explores a nursing method on scientific basis by accumulating necessary evidences.

Requirements and Degree

Minimum of 2 years of enrollment, fulfillment of required credits, submission of master's thesis completed after necessary research guidance and passing the review and final examinations. A Master's Degree (in Nursing Science) will be granted to those who complete these requirements.

Master's program in Nursing Science

Field of Research	Faculty	Detailed Description of Research Field
Clinical Nursing	MURAI Fumie KAWANO Atsuko	- Maternal and Infant Health Care, Women's Stress in Maternal Period and after Birth, Development of Health Education System for Adolescents †Midwifery Course
	FURUYA Kayuri WAKIMIZU Rie	- Support for Children and Their Families, End-of-life care for Children, Child's Assent for Treatment †Family HealthNursing (CNS)
	MIZUNO Michiyo SASAHARA Tomoyo YAMASHITA Michiyo	- Oncology Nursing, Palliative care, Medical and Surgical Nursing †Cancer Nursing (CNS)
	MORI Chizuru OKADA Yoshie MIKI Akiko	- Psychiatric Nursing, Rehabilitation Nursing for Schizophrenic Patients, Nursing of Mood Disorders, Occupational Mental Health †Psychiatric MentalHealth Nursing (CNS)
Health Care Systems in Nursing	ANME Tokie	- Community Empowerment and Health Care Systems based on Lifespan Development
	SAKATA Yumiko SANKAI Tomoko	- School Health and Community Health, Community Health Nursing, Population-based Epidemiological Study on Life-style related Diseases
	KAWAGUCHI Takayasu ASANO Yoshihiro SUGIMOTO Keiko FUKUZAWA Rieko	- Development of Telenursing System, Environment Design in Hospital, Support for Nursing Experts, Design Nursing, Caring and Welfare Equipments - Cross-national Comparisons of Perinatal Care; Doula Support, Global Health Nursing, Women's Health
	HIDAKA Kikue	- Rehabilitation Nursing, Evaluation of Nursing techniques
	SHIBAYAMA Taiga ABE Yoshiki	- Nursing Intervention Methods for Patients with Disturbance of Consciousness and Their Families, Diabetes Nursing and Education, Nursing for Chronic Pain
	HAGINOYA Hiromi	- Evaluation of Nursing techniques †Chronic Care Nursing (CNS)
Affiliation	Faculty	Detailed Description of Research Field
The University of Tsukuba Hospital	KOIZUMI Hitomi	- Nursing Management, Nursing Education, Career Development

Doctoral Program in Nursing Science

Admission Policy

1) Academic goals

The academic goal of the Doctoral Program in Nursing Science is to foster world-class leaders in the fields of clinical practice, management, education, research and administration who not only possess specialized knowledge and skills in nursing, but also have the ability to verifying nursing practice using a highly studious mind, and also have the ability to develop new skills in nursing and new methods of education and research based not only on specialized area in nursing, but also on interdisciplinary and scientific perspectives.

2) Applicants expected

Applicants expected are: students who seek to obtain skills for systemizing methods of education and research, which are the basis of creation of new knowledge and technical development for the next generation, by utilizing the abilities of nursing practice and research, which was developed in the Master program; as well as students who aim at becoming educators, researchers, nurses and managers in skilled clinical nursing as a bridge between practice and theory.

3) Basic policy for entrance examinations

Applicants' qualities and abilities to study in the Doctoral Program in Nursing Science will be evaluated based on examinations as well as submitted documents, written and oral tests of knowledge on English and nursing science.

4) Schedule of entrance examinations

Students entering the Doctor's program in April in the next academic year are required to take the entrance tests in August.

Objectives of student development

The academic goal of the Doctoral Program in Nursing Science is to foster world-class leaders in the fields of clinical practice, management, education, research and administration who not only possess specialized knowledge and skills in nursing, but also have the ability to verifying nursing practice using a highly studious mind, and also have the ability to develop new skills in nursing and new methods of education and research based not only on specialized area in nursing, but also on interdisciplinary and scientific perspectives.



Doctoral Programs in Nursing Science

Field of Research	Faculty	Detailed Description of Research Field
Nursing Science	ANME Tokie	- Health Promotion and Community Empowerment - Plasticity of Lifespan Development and Environment - Cross-Cultural Perspectives on Community Care and Health-Social Services
	HIDAKA Kikue	- Rehabilitation Nursing - Evaluation of Nursing techniques - Intervention study of nutrition and swallowing
	KAWAGUCHI Takayasu	- Research in Nursing Ergonomics - Development of Telenursing System - Environment Design in Hospital
	MIZUNO Michiyo	- Study on Health Behaviors of Cancer Patients - Intervention Study of Cancer Survivors and the Family - Study on Palliative Care to Cancer Patients
	MORI Chizuru	- Rehabilitation Nursing for Schizophrenic Patients - Nursing Care for Drug and Alcohol Addicts - Study on Nursing for Eating Disorders

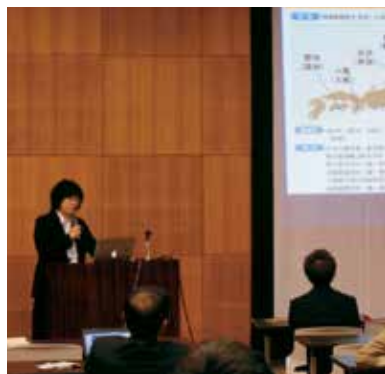
1-1-1 Tennodai

Tsukuba-City, Ibaraki 305-8575 JAPAN

Phone & Fax : +81-29-853-3403 (Office of Nursing Science)

e-mail : kanngojimu@md.tsukuba.ac.jp

Nursing Science, Graduate School of Comprehensive Human Sciences,
University of Tsukuba



ACCESS

利用

上野から約1時間、ひたち野うしく、荒川沖または土浦で下車、各駅から「筑波大学中央」行バスで約30分（「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車）

つくばエクスプレス利用

秋葉原駅から快速で約45分、つくば駅で下車、つくばセンター1番のりばで「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分（「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車）

高速バス利用

東京駅八重洲南口からつくばセンター行きの高速バスで約1時間、つくばセンターで「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分（「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車）

航空機利用

- 成田空港: 空港→「つくばセンター」行バス（約100分）・つくばセンターから「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バス（約10分）
- 羽田空港: 空港→「つくばセンター」行バス（約120分）・つくばセンターから「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バス（約10分）



● 電車



● 高速バス



● 自動車



お問い合わせ

筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻事務室

電話・ファックス 029-853-3403 / kanngojimu@md.tsukuba.ac.jp /

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/kango-kagaku/>

